

ゼミにおけるミュージカル「不思議の国のアリス」 制作・上演の成果

伏 見 強

22年度の本ゼミ生は、ミュージカル「不思議の国のアリス」を制作・発表した。制作に当たっては、学生たちにとって馴染み深いディズニーのアニメーション映画を参考にしたものの、脚本合作から配役、衣装考案、音響・照明プラン作成等に至るまでのすべてが手作りであり、幼児教育を学ぶ学生ならではの独創性も随所に観られた。タイトな時間割を克服しながら奮闘した本ゼミ生の取り組みを改めて検証し、制作・上演の成果と課題を探る。

キーワード：保育ゼミ研究、こども向けミュージカル、脚本合作、制作・上演の工夫

1. はじめに

本学幼児学科では、保育に関する様々なテーマ別のゼミを開講し、興味・関心を共有する少人数の仲間と共に、課題をより深化させる取り組みを実施している。学生の主体的な取り組みが前提であり、卒業研究的な意味合いも含まれていることから、2年間の学習成果の集大成として研究発表なども課される。¹⁾

平成21年度の本ゼミは、テーマを「保育実践における幼児音楽の研究」とし、幼稚園や保育園（所）で実践的に役立つ音楽の活用法の研究を目差した。音楽劇のほか人形劇やペープサートにも音楽を取り入れるなど、子どもの興味・関心を考えながら幼児音楽を深めていきたいと考えてゼミ生を募った。

同年8月のオープンキャンパスでは、ミュージカル「ピノキオ物語」を上演し、ゼミの目標である「学生一人ひとりが得意な領域を一層伸ばし、保育者としての力量をさらに高める。」²⁾ ことができたと思われた。これをステップとし

て、後期には異なる演目での上演も考えたが、同一学年での二作目は叶わず、後期に予定した近隣の幼児との音楽交流会は別の演目になった。

当然のことながら、ミュージカルはチームプレイである。その制作・発表には個人的役割のほかに、集団中の一員としての責任も生じる。このミュージカル「ピノキオ物語」は、楽譜も出版されており³⁾、テキストが求めるレベルの克服に対するハードな練習への疲弊感も観られた。

この反省から、平成22年度は、テーマを「アンサンブル演習」とし、「合唱や合奏、音楽劇などのアンサンブル演習を通していろいろな音楽に親しみ、幼児音楽との関連を考える。」と、内容にも幅を持たせることにした。アンサンブルはソロ（独唱・独奏）とは異なり、音楽の好きな人が集まれば容易に楽しむことができる。同好の仲間と心を合わせ、楽しみながら音楽を深めることはゼミの目標とも直結する。

このようにゼミのテーマを修正し、新たな方向性を提示し、練習がハードスケジュールにな

り過ぎることや、途中での停滞感を回避しようと考えた。つまり、一年間をかけて一演目に集中し、しっかりと完成させることを目指し、そのためにオープンキャンパスでの発表は別途の演目とすることにした。更に、ミュージカルの演目や内容についても学生と共に考え、企画から上演までを全員で検討した。

平成22年度は、一年を通して一作品に取り組み、ゼミ生全員の充実感を得ることができたと思われることから、変更の狙いは一定の成果を上げた。

以下、平成22年度の本ゼミ生によるミュージカル「不思議の国のアリス」制作・上演の取り組みを、2. 学生の興味・関心、3. 目標と概要、4. 脚本合作、5. 制作・上演の特徴、6. 役割と工夫、7. 考察、8. おわりに、の順で記述し、成果と課題を探る。

2. 学生の興味・関心

1) I 回生時の興味・関心

平成21年度と平成22年度の本ゼミ在籍者はどちらも20人であったが、開講時のアンケートでは、I 回生時に興味・関心を示した科目の占める割合において若干の相違がみられる。

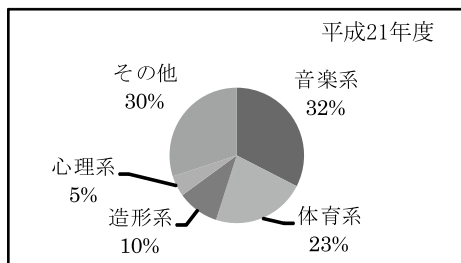


図1 得意科目（1）

なお、このアンケートは複数回答可であり、平成21年度は40科目、平成22年度は39科目の延

べ数がそれぞれの分母となっている。

平成21年度生の得意科目は、音楽系及び体育・造形系、心理系・その他の3系列に、約三分の一ずつ均等に分かれた。（図1）

平成22年度生では、音楽系が46%と優位を占め、体育・造形系、心理系も微増し、これらを合計すると92%となった半面、その他の回答率が8%と低くなった。（図2）

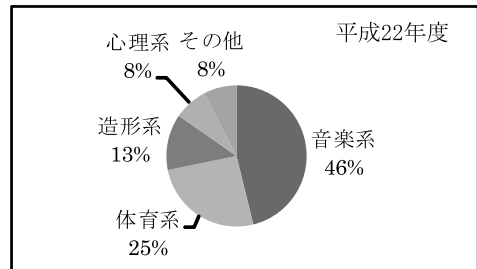


図2 得意科目（2）

2) ゼミ開講時の希望

平成22年度生のゼミ開講時の希望を聞くと、中学・高校時代での吹奏楽経験者が多く、器楽アンサンブルを希望する者が18人居て、13人のミュージカル希望者がこれに次いだ。（表1）

また、図1、図2でも判るように音楽やダンスの好きな学生が集まっており、これらの結果を踏まえて、学生の希望を総合的に包含するミュージカルが、自ずとゼミ活動の柱となっていた。

しかし、この段階では演目などの具体性は定まっておらず、ディズニーやジブリのアニメ作品などを漠然とイメージしていた。

表1 ゼミ開講時の希望

演奏形態	希望する内容	演奏したい楽器	できる楽器	マイ楽器
アンサンブル(18)	ディズニー(2)	パーカッション(5)	サックス(2)	クラリネット(4)
ミュージカル(13)	ジブリ(1)	ハンドベル等(3)	クラリネット(2)	フルート(2)
コーラス(6)	劇中音楽(1)	アコーディオン(2)	ピアノ(1)	ギター(2)
歌(4)	劇団四季のようなもの(1)	ハープ(2)	金管楽器(1)	アルトサックス(1)
大規模合奏(1)		クラリネット(1)	スネアドラム(1)	チューバ(1)
ダンス(1)		金管楽器(1)	フルート(1)	ベース(1)
		ベース(1)	ピッコロ(1)	ウクレレ(1)
		ウクレレ(1)		

* () 内は希望者数を示す

進路については、保育園と幼稚園への就職を志望する者が19人(表2)で、95%に上り、この活動を将来に役立てたいとの意欲も見取れる。

表2 ゼミ生の進路志望状況

保育園	19 (1)
幼稚園	19 (1)
企業・金融事務	2
福祉施設	1
進学	1

* () 内は保育園または幼稚園を専願した人数

表3 就職状況

保育園	9 (1)
幼稚園	11

* () 内は公立保育園

平成22年度ゼミ生は全員が所期の目的を達成し、幼稚園に11名、保育園に9名が、それぞれ就職した。(表3)

3. 目標と概要

この年、本学は開学50周年を迎え、幼児教育学科では、これを記念して12月にゼミ発表旬間を設定し、全18ゼミが様々な取り組みと研究成果を発表した。⁴⁾

本ゼミは、音楽交流会の企画に加わり、ミュージカル「不思議の国アリス」の制作・上演を目差した。

恒例の、オープンキャンパスにおけるミニ授業には別途プログラムで臨む。(表4)

表4 オープンキャンパスでの発表プログラム

1. きみもとべるよ! ピーターパンより (ピアノ連弾)
2. ピカチュウ (手遊び)
3. ミッキーマウス・マーチ (合奏&手遊び)
4. ゴールデンアフターヌーン (歌唱)
5. アンダー・ザ・シー (ダンス)
6. 小さな世界 (歌唱)

1) 前期ゼミの概要

学生の興味・関心、期待に基づく話し合いを重ねた結果、幼児にも理解できる内容のストーリーを考案し、演者と視聴者が共に楽しめる手作りの音楽劇を演じることになった。

ミュージカル「ふしぎの国のアリス」が演目に採用され、あらすじや、BGMを含む使用音楽、ダンス、照明、音響、舞台等々のイメージが固まるまでに5回の授業を要した。

7回目以降はオープンキャンパスや七夕の準備も目白押しとなってきたことから、ミュージカルと3本立ての作業となり、脚本の合作は夏休み明けとなった。(表5)

表5 前期保育ゼミの授業概要

回	主な内容
1～4	50周年記念事業、七夕、オープンキャンパス・ゼミ発表への参加を目差した取組内容の具体案検討
5	ミュージカル「ふしぎの国のアリス」あらすじ、使用音楽(含むBGM)、ダンス、照明、音響、舞台等のイメージ確認
6	「ふしぎの国のアリス」内容の詰め、台詞、音楽、配役決定、練習日程等検討
7～8	「ふしぎの国のアリス」と「オープンキャンパスの準備」を同時進行
9～13	「ふしぎの国のアリス」脚本、衣装、ダンスの分科会を確認 オープンキャンパス・プログラムの確認 七夕用「アンダー・ザ・シー」ダンス
14～15	オープンキャンパスのプログラム(表3)、「ふしぎの国のアリス」練習

2) 後期ゼミの概要

後期になってようやく脚本も整備され、ミュージカル「不思議の国のアリス」の練習が本格化する。

27回目の授業が発表の当日になった。(表6) 学生たちは、空き時間の多くを割いて練習に励んだ。

表6 後期保育ゼミの授業概要

回	主な内容
16～20	部分練習、パート練習、ダンス振付
21～22	通し稽古、大道具、小道具、照明制作
23～25	練習7(総合練習1)
26	リハーサル
27	附属幼稚園との交流音楽会 (*50周年記念ゼミ発表)
28～30	振り返りとまとめ

4. 脚本合作

学生たちの多くは、幼少時よりDVD「Alice in Wonderland」に親しんできた。本ミュージカル「不思議の国のアリス」の脚本合作に際しても、全員で原作のあらすじを確認すると共に、

日本語吹き替え版⁵⁾を鑑賞し、ストーリー作成上のヒントを得る。

1) 原作

ウィキペディア百科事典によると、イギリスの数学者で作家のチャールズ・ラトウィッジ・ドジソンが、ルイス・キャロルの筆名で1865年に出版した児童文学である。⁶⁾

2) DVD「Alice in Wonderland」

このDVDのあらすじは次の通りである。

アリスは森の中で懐中時計を持ち慌てて走るウサギを追いかけているうちに、木の根に掘られた深い穴に落ちてしまいます。そこはまさにトンチンカンでミョウチキンでアベコベで・・・奇妙な世界。船乗りのドードーやかかしな双子のティーとダム、パンとバタフライや馬バエ、水タバコを吸うイモ虫やニヤニヤ笑いのチシャ猫などでいっぱいです。しかも体が縮んだり伸びたり、スマレやユリたちが歌ったり、イカレ親父らと何でもない日々を祝ったり・・・。ハートの女王のもとでは首をはねられそうになり、トランプの兵隊たちに追いかけて回される始末。道に迷い心細くなるアリスは家に帰ることができるのでしょうか。⁷⁾

アリスが鍵穴を通過できるほど小さくなったり、逆に巨人になったりするなど、アニメーション映画ならではの表現が駆使されている。

3) 学生たちが合作した脚本

幼児にも分かり易いミュージカルをと、全員がアイデアを出し合って仕上げた脚本は、全10シーンから成る。

姉の読書のお伴で退屈しているアリスの様子からこの話が始まる。

シーン2・3では、ハートの女王にジュース

表7 ゼミ生合作の脚本より シーン9

シーン9		アリス	でも…この世界を救う為にはもうゲームをして勝つしかないわ。(決意を固める感じで)
女王と			では、これからやるゲームの説明をしよう。(人差し指びん)
ゲーム	ゲームを始める	トランプ5	このゲームは3回戦で勝負を決める。
	効果音	トランプ5	題して『シャッフルゲーム！』
			(みんなでイェーイ！) ⇒元氣よく盛り上げる！
		トランプ5	今から、5枚のトランプが出てくる。この中のうち、1枚だけ赤いトランプがいるんだけど
			わかるかな？
		赤トランプ	ぼくだよ〜！(全体に元氣にアピール)
		トランプ5	この「ハートのトランプ」にかくれんぼをしてもらおうよ！どこにいるか見つけてね！
	♪sing!sing!sing!	女王様	ゲームスタート！
			♪トランプ達シャッフル
		トランプ5	ではでは！女王様の答えを聞きましょう。
		女王様	○番目に決まっておる！
		トランプ5	アリスたちは何を選ぶかな？
		ウサギ	えーっと…アリス、どのトランプだろう？
		アリス	う〜ん…難しいわね。きつと○番目のトランプだと思うわ！
		ウサギ	それじゃあ僕たちの答えは、○番目だ！
	めくる効果音		(トランプめくる)
		トランプ5	女王様、大正解！さすがです！
		女王様	当然の結果ね。
		アリス	ウサギさんごめんなさい。ジュースは絶対に渡せない。次は必ず勝ちましょう。
		ウサギ	うんっ！がんばるぞ！
		トランプ5	それでは、次の問題です！
			♪トランプ達シャッフル
		トランプ5	ではでは！女王様の答えを聞きましょう。
		女王様	○番目に決まっておる！
		トランプ5	アリスたちは何を選ぶかな？
		ウサギ	今度は絶対間違えないぞ
		アリス	ウサギさん、今度は相談して決めましょう
			(二人で相談するマネ)
		ウサギ	よしっ！僕たちは○番目のカードにするよ！
	めくる効果音		(トランプめくる)
		トランプ5	アリスチーム大正解！さあ！いよいよ最後のゲームになりました！
			次のゲームに勝ったほうがジュースを手に入れます！(指パチン)
			♪トランプシャッフル
		トランプ5	ではでは！女王様の答えを聞きましょう。
		女王様	う〜ん…難しいな。いや、○番目に決まっておる！
		トランプ5	アリスたちは何を選ぶかな？
		ウサギ	え〜全然わからない！アリスどうしよう！
		アリス	困ったわね…。(悩む)
			そうだ！(ひらめく)ここにいるお友達に力を借りましょう！
			このカードだと思う人！拍手！×5
		ウサギ	アリス、このカードが一番多いみたいだよ！
		アリス	そうね！みんなありがとう！それじゃあ私たちは○番目のカードにするわ！
	めくる効果音		(トランプめくる)
		トランプ5	な、な、なんと！2問正解で、アリスチームの勝ち！
		女王様	そんな…私が負けるなんて…
			でも負けは負けだ。このジュースを持っていくがよい。
			(ジュースを渡す)
		アリス	ウサギさん、やったわ！これで、みんなを幸せに出来るわね。
		ウサギ	ありがとうアリス、そして僕たちに力を貸してくれたみんな！本当にありがとう。
		アリス	ウサギさんちょっと待って。このままでいいの？
		ウサギ	え？なんのこと？
		アリス	ジュースを集めている間に気付いたの。女王様がなぜみんなの大切にしているジュースを奪ってしまったのか。女王様、本当はみんなと仲良くしたいのではないですか？
		女王様	ふんっ、そんなことがあるものか。
		アリス	では、なぜジュースを全て奪ってしまったの？あなたの力なら簡単なことなはず。
		ウサギ	…そうだよ。僕たちは女王のことを誤解していたのかも。
		女王様	…私はずっとひとりだった。本当はみんなと仲良くしたいのに素直になれなくて、意地悪もたくさんしてしまった。みんな、本当にごめんね。
		全員	(女王の反省にみんな考え込む)
		アリス	女王様、ウサギさん、みんな！この世界はジュースがなくなつて大丈夫よ。みんなが、
			心をつにつにすることや、友達を思いやる気持ちに気付いたんだもの！
		ウサギ	そうだね！僕たちはこれからみんなで力を合わせてこの世界で生きていこう！
		全員	うんっ！
		ウサギ	アリス、君のおかげでたいせつなことに気づいたよ！これからは、このジュースを見る
			たび君を思い出す。本当にありがとう！
		アリス	ウサギさん…みんなありがとう！これからもみんな仲良くね。楽しいみんなとお別れ
			するのはとってもさみしいけど。…きつとまたあえるよね。
		ウサギ	もちろんさ！また会えるよ。
	暗転		(全員はける)

表8 ゼミ生合作の脚本より シーン10

シーン10	照明	アリス	あれ？ここは元の世界？…とっても不思議なお話だったわ。また、いつか…
別れ	フェードアウト	ナレーション	みんなもいつか絵本の世界に行けるかもしれないね。また会える日まで…
★エンディング	照明・音楽スタート	全員	♪ヘアスプレーの曲”You can’t stop the beat”でダンス！
			★おしまい★

を奪われて困っているウサギと出会い、力を貸すことを約束して少女アリスの冒険がスタートする。

シーン4では、花畑が広がり、華やかな雰囲気の中で、楽しい「ゴールデン・アフタヌーン」を合唱する。

シーン5では、ドードーとその仲間たちが賑やかにダンスをしながら、アリスとウサギを歓迎する。

シーン6は深い森の中。チシャ猫が二人をまっていた。

シーン7で、この三者に帽子屋と三月ウサギが加わり、お茶会のダンスが始まる。その後、お城への道が告げられる。

シーン8は女王の城内。アリスとウサギはトランプ兵に囲まれながらも女王に面会を果たすが、ジュースと引き替えに、トランプゲームに勝利することが求められる。

シーン9で、いよいよトランプゲームが始まる。アリスとウサギは、女王からの難題に果敢に挑み、一旦は窮地におちいるものの、ついに勝者となり、見事にジュースを取り戻してハッピーエンド。(表7)

この場面のやりとりの中に、子どもたち（聴衆）も参加できる仕掛けを設定し、この物語の見せ場を忍ばせた。

シーン10は、お話の後のカーテンコールとして用意され、華やかなダンスで幕を閉じる。

(表8)

ミュージカルは、音楽と演劇が融合する総合表現である。本ミュージカルの制作・上演においては、次の4点が強調された。

1) 音楽

ディズニーのアニメ映画より、アリスの歌のほか、ゴールデン・アフタヌーン、ドードーのダンスを用いるなど、場面にあった楽しい音楽を多用した。

2) ダンス

チシャ猫は「ピンクパンサー」のテーマ曲に合わせて踊りながら登場する。花たちやドードーの仲間、トランプゲームの場面にもそれぞれに相応しいダンスを取り入れ、エンディングでは映画「ヘアスプレー」でお馴染みの「You can’t stop the beat」に乗って全員でダンスし、フィナーレを飾った。

3) 衣装

衣装係より、図3～5のデッサンが示され、イメージを統一した。

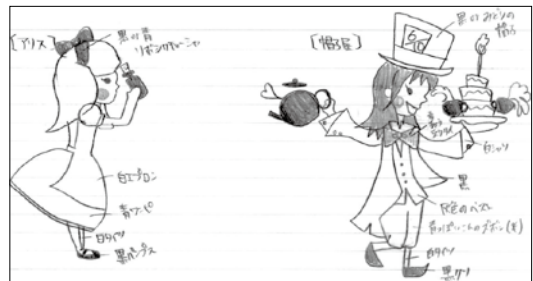


図3 アリスと帽子屋衣装イメージ

5. 制作・上演の特徴

アリスの衣装は、青いワンピース、白いエプロン、白かボーダーのタイツ、黒いパンプス、青いカチューシャ。(図3左)

帽子屋(図3右)は、緑の帽子、白いシャツ、蝶ネクタイ、灰色ベスト、黒いカラスジャケット。

ウサギは、白い兎耳カチューシャ、黄色いカッターシャツ、赤いジャケット、チェックの半ズボン、黒い靴、蝶ネクタイ、時計。(図4左)

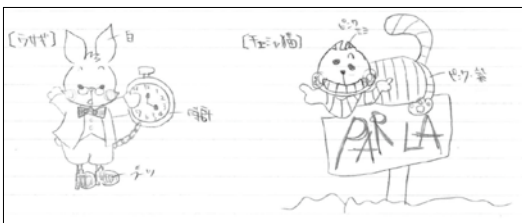


図4 ウサギとチシャ猫の衣装イメージ

チシャ猫は、ルーム着(チシャ猫の部屋着)、猫耳カチューシャ。(図4右)

ドードーは、白いシャツ、黒いジャケット、黒いズボン、黄色いタイツ、黒い靴、黄色いくちばし、蝶ネクタイ、キセル。

ドードーの仲間は、それぞれの動物耳カチューシャ、スウェット、靴。

三月ウサギは、茶色い兎耳カチューシャ、白いシャツ、ジャケット、ベスト、ダーク系のズボン、黒い靴、蝶ネクタイ。(図5左)



図5 三月ウサギと女王様の衣装イメージ

女王は、ティアラ、赤と黒のドレス、黒いパンプス、赤い扇子を持つ。(図5右)

花たちは、花の装飾物、上下とも緑の服。

トランプは、ダンボール製トランプ、赤い頭巾、白い頭巾、白いTシャツ、ズボン、靴。

その他、小道具としてダンボール製のお茶会用ティーポットとティーカップなどを制作した。

衣装の多くは自前、または古着を融通し合って手を加えるなど、イメージに近づけるために補正して用いた。

4) 背景

本公演では、舞台上手の上部スクリーンにプロジェクターを通してパソコン上の映像を投影した。

6. 役割と工夫

ゼミ学生の発表後のアンケート結果を配役別にグループ化し、工夫したことや上手くいったこと、課題別に要約する。(表9)

Aグループに、アリス、ウサギ、チシャ猫、ドードー、女王の5役をまとめ、Bグループは帽子屋を含むドードーの仲間たち、Cグループは司会を含む花たち、D欄グループはトランプたちの意見である。

なお、この要約は最終授業に出席した18名分の自由記述式アンケートによる。

7. 考 察

本ゼミ生の興味・関心は、開講当初よりミュージカルに注目が集まり、ほどなく、子ども向けミュージカル「不思議の国のアリス」制作・上演の方向に、意見が集約していった。

表9 発表後アンケート結果の要約

	工夫したこと	上手いかったこと	課題
A グループ A	子どもたちにも理解できる脚本を制作し、ゼミ生全員の協力態勢作りを心がけた。 ウサギのキャラクター・イメージを作って表情豊かに踊じた。 スクリーンに映像を映し、音のイメージに踊りを合わせた。 子どもたちを話の世界に引き込む脚本作りと印象的な照明を考えた。 役柄に相応しい衣装を考え、相互に振付合い、休み時間のほかに家でも練習した。	最後まで良い雰囲気練習でき、脚本とダンスがピッタリで、各役作りを一人ひとりが工夫したことで本格的なミュージカルになった。 全員が出演し、練習で確認したことをタイミング良くパーフェクトにできた。 音響・照明さんにも感謝。 幕間の短縮とダンスの仕上がりや効果音がうまく使えて、幼児たちがしっかり参加してくれた。 脚本が早くでき、女王とトランプのシャッフルゲームの場面では子どもたちが盛り上がり、観客参加型のミュージカルになった。 みんなで踊るダンスはすごく揃っていた。全員が団結し協力し合えた。	20人のゼミ生をまとめることは大変で、我慢してもらったことも多かった。もっと上手にまとめられるようにになりたい。 ジュースを混ぜる場面のペットボトルが小さかった。 回を重ねるごとに良くなったので、ゼミの最初から取り組みれば良かったのではないかと。 途中で、学生間の取り組み方にずれが生じた。最初、脚本は幼児向けではなく、長くて難しいと感じていた。
B グループ B	役の気持ちになりきって表情を変え踊った。 役柄に合った衣装でメリハリをつけて表情豊かに踊った。 苦手なダンス克服のために空き時間を活用して頑張った。 楽しく、大きな声で歌い、フィナーレは表情豊かに体全体で表現した。 大きな声ではっきりと台詞を言うことを心がけていた。	個人・合同練習を繰り返すうちにダンスもマスターでき、本番では子どもたちが興味深く鑑賞してくれた。 ダンスが楽しく、フィナーレが特にうまいき、何よりも全員で一つのことを成し遂げることができて嬉しかった。 自分のセリフやダンスがない場面で、セリフに反応して首を傾げたり、共感して頷いたり、みんなで楽しく創ることができた。 本番では、ダンスも楽しく踊れたし、全体を通して楽しめた。 ダンスで精一杯努力し、結果を残せて良かった。	決まった人に頼ってしまった。 もう少し、積極的に発言したり、提案できれば良かった。 本番をもっとやりたかった。
C グループ C	シーン別の練習で、全員がダメ出しに参加し、相互理解を深めた。 一言しかないセリフにも精一杯の気持ちを込めた。 役柄に合わせた衣装を考えて、様々な店で沢山の商品を見て回った。 高校の文化祭で使った衣装をアレンジし、歌唱場面でも観客に伝わる振付を考えた。	不安だったフィナーレのダンスも空き時間の活用などによって克服でき、みんなと一緒に成長できたことが良かった。 練習でうまくできなかったダンスも、本番ではできるようになった。 舞台裏でもスムーズな進行を心がけた。 皆の気持ちが一つになっているのがすごく感じられ、素晴らしいと思った。 花たちの喧嘩の場面は台詞が無く難しかったが、練習の度に5人の花たちの表現が大きくなり、本番は上手いかった。	役になりきれていなかった。 中心になってまとめてくれた人に任せっきりになってしまった部分もあった。 もう少し大きく動き、しっかり声が出せれば良かった。 もっと思い切った大きく動いた方が観客に伝わったと思う。
D グループ D	常に笑顔が心がけて楽しそうに踊った。 見ていて楽しいダンスになるよう振り付けた。 ステプロさんとも練習ができ、元氣よく笑顔で歌い踊れて、良い作品になった。 トランプの衣装を考案・制作し、分かりやすいダンスを心がけた。	フィナーレのダンスが揃ってできて良かった。 すべて上手いかった。 本番が成功して良かった。 楽しく歌い、踊ることができ、良い作品になった。 皆と仲良くなり、団結力が高まった。 一つの作品として無事終演できた。 衣装・ダンス・演奏など、完璧にできた。	ステプロさんとの打ち合わせなど遅くまで残ってくれた人に感謝。 準備作業をもっと分担できれば良かった。

折しも、この年、本学開学50周年を迎えていた。その記念イベントで発表するという目標は、当然のこととして受け入れられていった。

脚本が確認・承認されたのは、後期の第1回目の授業時である。演目が決定して以来、脚本の合作に5ヶ月を要したことになる。もちろん、

この間に夏休みが含まれており、学生は保育所実習期間中だったことを考慮する必要がある。

後期の制作・上演に向けた姿勢が真剣味を帯びていったことを考えると、この熟成の時間も有効であったと考えたい。

また、配役やその他の役割の決定においても



図6 子どもたちも参加したシャッフルゲームの場面

積極的な議論が重ねられ、全員が納得して決められていったこともその後の練習の効率化に繋がった。

本ミュージカルの制作は、子どもの心に伝わる脚本の合作に始まり、観客参加型の舞台を目指した。そして、全員が分かり易い演技や表情豊かな表現を心がけた。

公演当日は、附属幼稚園児などが招待されたが、学生たちのこの狙いは見事に的中し、舞台と客席が一体となった。その様子は、図9の子どもの後ろ姿からも見て取れよう。

本公演の特色に挙げたダンスの習得のために、多くの時間を費やすことになったが、学生一人ひとりが自分にできることを見つけて、空き時間を活用するなど、熱心に練習していたことが、発表後のアンケートからも窺える。

時間とエネルギーをかけた結果として、このダンスが成功したと捉え、楽しく歌い、踊れたことの達成感も読み取れる。

役柄にあった衣装などにも工夫の跡が見ら

れ、制作に当たっては私物を持ち寄り、補正するなど経費削減の努力も見られた。

加えて、「みんなと一緒に成長できた」との貴重な感想もあり、集団活動ならではの収穫として記憶に留めたい。

一方、課題としては、エンジンのかかりが遅かったことへの反省や、やや消極的で常に後塵を拝してしまっていたことへの反省も見られた。

年度末に実施された学生の授業アンケート結果では、「シラバスでの目標・内容確認」及び「シラバスに沿っていたか」では、やや低めの評価もあったが、その他の項目では学生の満足度が高く、ゼミ生20人全員が「新しい知識を得た」、「体験授業の良さを実感した」と回答した。

この年度前期までは、練習のスペースを確保するために、その都度、教室の机と椅子を移動しなければならなかったが、後期より、新棟・月照館リズム室での練習が可能になって、広くて快適な練習場になったことも、学生の意欲を

高めた。

本ゼミのような活動では、総合表現活動を楽しみながら学ぼうとする自発的な姿勢が不可欠であり、学生の自発性や積極性を引き出す仕掛けのほか、意欲醸成のための周到な諸準備も成否を分ける。

8. おわりに

学生によるミュージカル制作の研究は、この年で5年目となった。発表した作品は、すべてDVDに収録している。しかし、一つの作品が仕上がるまでのプロセスについては、文字情報でしか記録することができず、本稿では、当該年度のゼミ活動をできる限り忠実に辿ることにした。

制作の過程においては、様々な困難に出くわすことが恒である。このような活動では、それらと正面から向き合うことが求められる。

今回も例外ではなく、いくつかの課題が浮上した。その都度、学生が出した答えは「やるしかない」「がんばろう」だった。

もとより、ミュージカルの制作は一人で行えるものではない。だからこそ、集団内における個人の在り方が問われ、大きく言えば、人としての生き方、個人のポリシーをも問うことに繋がる。ここに教育としてのゼミのテーマが存在する。

幸い、本ゼミ生はそうした場面で、いつもポジティブな考えを優先させ、アクティブに活動することで困難を克服していった。そして、その度に少しずつ成長していったように思われる。

本稿の締め切りが間近となった2011年10月中旬現在、現ゼミ生による子ども向けミュージカル「ピーターパン」の練習もそろそろ佳境に入ろうとしている。

本稿は、このタイミングでの執筆となったが、この振り返りは、現在進行中のゼミ活動にも生かされるものと期待するところである。

末筆ながら、照明や音響で華を添えていただいた加賀田氏をはじめとするステージ・プロデュースの関係各位に改めて感謝申し上げて、本稿を結ぶ。



図7 フィナーレ

引用・参考文献

- 1) 京都文教短期大学平成21年度シラバス pp 171,193、
平成22年度シラバス pp 159
- 2) 京都文教短期大学平成21年度シラバス pp 171,193、
平成22年度シラバス pp 159
- 3) 城野賢一・清子編集著／振付・監修 舞踊劇名作集
ピノキオ物語 全音楽譜 pp5-48
- 4) 京都文教学園広報「ぶんきょう」第121号2010
- 5) DVD「Alice in Wonderland」販売／シャフト株式会社
- 6) <http://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%B8%8D%E6%80%9D%E8%AD%B0%E3%81%AE%E5%9B%BD%E3%81%AE%E3%82%A2%E3%83%AA%E3%82%B9>
2011.9.26
- 7) DVD「Alice in Wonderland」販売／シャフト株式会社